

平成 24 年度第 2 回千葉県文化財保護審議会の概要

1. 日時

平成 24 年 9 月 10 日（月）13：30～16：00

2. 場所

県庁中庁舎 9 階企画管理部会議室

3. 出席者

【審議会委員】丸山委員、吉村委員、玉蟲委員、原田委員、小笠原委員、井原委員、吉良委員、鈴木委員、笹生委員、岡本委員、赤坂委員、成田委員、福田委員、矢島委員、葛西委員

【教 育 庁】重栖教育振興部長、湯浅文化財課長、道上副課長、萩原学芸振興室長、太田文化財保護室長ほか

4. 議事報告

(1) 平成 24 年度指定文化財保存状況調査報告について

文化財調査報告書：千倉の三番叟、椎津のカラダミ、軍荼利山植物群落

(2) 平成 24 年度調査対象文化財調査報告について（以下、非公開）

(3) その他

5. 委員の意見等

(1) 平成 24 年度指定文化財保存状況調査報告について

【千倉の三番叟】

- ・千倉の三番叟の特色は、子どもたちが伝承していること、しかもそれが地域の年齢階梯制に組み込まれていることにある。しかし、これは全国的な傾向でもあるが、近年、少子化の影響で演者不足の問題が生じてきている。地元としては、存続を強く望んでおり、現在、工夫を凝らしながら対応しているところである。
- ・クラブ活動など、学校教育の一環として郷土芸能を習得していくことも手段のひとつであろう。ただ、それも地域の実態に合ったものでなければ、本質的な意味を失ってしまうこともある。ただ行うということだけでなく、地域に根づかなければ意味はない。
- ・民俗芸能は、それぞれの地域でそれぞれの実情に見合った形で守っていくべきである。まず、その地域でどうしていくのかを考えることが重要で、その結果、芸能を維持しつつ、組織が組織として変容していくことは十分ありうることだろう。

【椎津のカラダミ】

- ・椎津のカラダミは、一時期停滞した時期もあったようだが、現在では青年会を中心に地域の積極的な関与もあって、問題なく執り行われている。一般論的な後継者不足といったマイナス要因も特に見当たらない。
- ・この地域は椎津城を中心とした地域であって、瑞安寺と八坂神社を結ぶルートを練り

歩くということが重要な要素になっているので、今後とも地域をあげて保存継承して行っていただきたい。

【軍荼利山植物群落】

- ・植物群落の状況やシダ植物等の育成状況、管理状況は非常に良好とってよく、特に問題はない。ただ、群落に対する脅威としては、周辺竹林の拡大が問題になってくる可能性もあるので、侵入した場合は早めの除去が望まれる。